

1 平和宣言文について

(1) 宣言文の起草にあたって

被爆から80年、核戦争の危機が高まる今、人種や国境を越えた「地球市民」としての視点こそが、分断を乗り越える原動力になることを訴える。そのうえで、市民社会には対話や交流による信頼構築と連帯を、各国の指導者には、国連創設時の原点に立ち返り、多国間主義、法の支配の再建と核兵器廃絶への具体的道筋を示すことを求めるとともに、長崎は被爆地の使命として被爆の記憶を伝え続け、核兵器廃絶への決意を表明するもの。

(2) 平和宣言の骨子

- 即時停戦の訴えと核戦争に突入することへの危機感の表明
- 故・山口仙二氏の演説を引用し、核兵器の非人道性と再び被爆者をつくるなと訴えた被爆者の心からの叫びの共有
- 日本被団協ノーベル平和賞受賞の言及と「地球市民」の視点に立った行動の重要性を強調
- 市民社会に対し、地球市民として行動し、対話・共感・信頼を土台に、平和をつくる力に変えていこうとの呼びかけ
- すべての国の指導者に対し、同じように地球市民として多国間主義と法の支配の再建、来年開催のNPT再検討会議で核兵器廃絶への具体的道筋を示すことの要請
- 日本政府に対し、憲法の平和の理念と非核三原則の堅持、核兵器禁止条約への署名・批准、核抑止に頼らない安全保障政策に向けたリーダーシップの要請、被爆者援護の充実と被爆体験者救済の要請
- 原爆及び戦争犠牲者への追悼と、被爆の記憶の継承及び地球市民と連帯し核兵器廃絶への決意表明

(3) 平和宣言の発信

- 平和宣言は、英語、中国語、韓国語、ロシア語、フランス語、オランダ語、アラビア語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語の10か国語に翻訳して、長崎市ホームページに掲載
- 式典の様子は同ホームページにてインターネット配信(日本語、英語)を行い、広く世界に発信